

沖縄県公安委員会定例会会議録（令和7年8月7日）

1 主な報告等

(1) 関係機関と連携した児童虐待防止対策について

～「虐待事例の法医学的診かた」 研修会の開催～

委員から、児童虐待の通告件数や検挙件数が増加している中で、このように関係機関が一堂に会して研修を受講することは非常に意義深い。お互い顔が見える関係を築き、更に知識が加われば、適切な初動対応ができるようになる。このような合同研修はこれからも続けるべきだ。特に、第一線の学校現場にいる教職員の目は非常に重要であることから、次回は、教職員の聴講数を増やす努力をしてほしい。また、研修内容と受講対象者についても吟味してほしい。児童にも乳児から生徒まで幅がある。乳幼児に関する内容なら保育士を対象にするなど、聴講者のストライクゾーンに合わせた研修を行った方が効果的である。今後とも、関係機関との連携を密にして、児童虐待防止に努めてもらいたい旨の発言があった。

(2) 令和7年度沖縄県警察通信指令競技大会の開催結果について

委員から、通信指令には、迅速かつ的確な指示が求められると思う。他県で猟銃立てこもり事案が発生し、警察官も殉職した例もある。臨場した警察官が受傷しないための指令を行うには、常日頃からの訓練が重要だ。病院でも、心停止患者が発生した場合にどのような対処を行うか訓練を行い、その結果をフィードバックしている。今回のように訓練の先に競技会があれば、各所属が切磋琢磨し、技能向上につながるよい取組だ。個人の部で優勝した職員には、誇らしいタイトルや称号を与えて栄誉をたたえるなど、工夫して大会を盛り上げながら県警全体のレベルアップを図ってもらいたい旨の発言があった。

(3) 「沖縄ゆいまーるプロジェクト」に関するプレスリリースについて

委員から、昔から産官学連携の大切さは言われているが、それぞれ組織の方向性が違うことから、難しいのが現状である。しかし、この「ゆいまーるプロジェクト」は年々発展し、経済効果や交通安全につながる成果を出している。各警察署協議会でも、委員から交通に関する提言が多くあった。地域住民の意見要望などの小さなデータを収集したビッグデータに融合させるなど、さらなる快適な交通環境の実現を期待したい。沖縄では、警察、行政機関、事業者及び県民が一体となって、「730（ナナサンマル）」という世界に類を見ないプロジェクトを成功させた経験がある。通行区分の変更と一口に言っても、今まで乗っていたバス停も上下線が反対になるなど、県民生活が一変するほどの衝撃的な出来事であった。これを起点とした交通安全活動を展開するなど、産官学連携のトップランナーを走り続けてほしい旨の発言があった。

(4) その他

警察本部から、「ゆいまーるプロジェクト」には新たな事業者や行政機関が加わ

り、収集するデータの種類も増え、それをAIを用いて分析して携帯アプリで情報を発信するなどの発展を遂げ、更にはヤンバルクイナのロードキル対策への活用など、今まで考えていなかった形へと広がりを見せており。警察も「ゆいまーる精神」で積極的に協力し、全国に誇れるプロジェクトにしたい旨の発言があった。

2 主な決裁等

(1) 警務部

- ・ 公安委員会宛て苦情の受理について
- ・ 沖縄県警察官等に対する被服の支給及び装備品の貸与に関する条例の一部を改正する条例の提出について
- ・ 審査請求の受付について
- ・ 令和8年度新規事業・継続事業に係る箇所新規の概要について
- ・ 裁決書の裁決について
- ・ 監察課関係報告

(2) 交通部

- ・ 自動車運転免許の行政処分について